



敵は南か、北か、  
世界か——

# ベルリンファイル

THE BERLIN FILE

ハ・ジョンウ「チェイサー」    ハン・ソッキュ「シュリ」    チョン・ジヒョン「猟奇的な彼女」    リュ・スンボム「容疑者X」

監修&脚本リュ・スンボム(生き残るための3つの取引)  芸術監督:チョンドクホン(G.I.ショー バック2リベンジ)  
2013年 韓国 120分 カラー シネスコ 5.1chサラウンド 日本語字幕-脚本原案 原題:베를린 提供:CJ Entertainment 配給:CJ Entertainment Japan

CJ ENTERTAINMENT presents a FILMMAKER R&K production a film by RYU SEUNG-WAN HA JUNG-WOO HAN SUK-KYU CIANNA JON RYU SEUNG-BUM "THE BERLIN FILE"  
music by CHO YOUNG-WUK production designer CHUN SOO-A costume designer SHIN H-YOUNG make up and hair by CHOI HYE-LIM (THE OBGB) sound designed by KIM CHANG-SUB sound recording YOON SUNG-KU (B.O.B)  
edited by KIM SANG-BUM KIM JAE-BUM (KIM SANG-BUM STUDIO) director of photography CHOI YOUNG-HWAN lighting supervisor KIM SUNG-KWAN line producer KIM YONG-SUN FIELDBO KEVEN JON  
executive producer JEONG TAE-SUNG associate producer PARK CHEOL-SOO investment executive LEE HAN-SEUNG co-producers KOK SU-RAN HAN JAE-DUCK producer by KANG HYE-JUNG written and directed by RYU SEUNG-WAN  
Filmmaker R&K CJ ENTERTAINMENT ©2013 CJ E&M CORPORATION ALL RIGHTS RESERVED (KR) (KO) berlinfile.jp

かつての分断都市“ベルリン”に仕組まれた巨大な陰謀——  
全てを欺かなければ生き残れない、ハイブリッドスパイアクション!

# 世界は裏切りで満ちている—

韓国、そしてハリウッドを震撼させた衝撃がついに日本上陸!

哀しき諜報員たちの暗闘を描いた圧倒的なリアリティに、各界から絶賛の嵐!!

これは間違いなく第一級のスパイ映画でありアクション映画だ。何よりも、第一級の悲恋映画である。

**天木直人**さん(元駐レバノン特命全權大使、作家)

熱く、美しく、哀しい男達。自分は何かを、こんな風を守るだろうか?自問自答を繰り返しました。

**安東弘樹**さん(TBSアナウンサー)

ベルリンを舞台に繰り広げられる激しいアクションに、未だ分断された朝鮮民族の怒りが込められている。

**大谷昭宏**さん(ジャーナリスト)

男女の愛憎と渦巻く謀略。血の通った人間を通して朝鮮半島の「今」を活写した秀作。面白い。観て損はない。

**小川和久**さん(軍事アナリスト)

ベルリンを舞台にした、まぎれもなく、韓国映画史上最高のアクション映画、大人のロマンスっていうエッセンスもあって、女性にもお勧めの作品です。

**加藤夏希**さん(女優・モデル)

究極のジレンマのなか、息もつかせぬ素晴らしいアクションを展開させたリュ・スンワン監督に乾杯したい。

**金子修介**さん(映画監督)

韓国には北朝鮮相手に同じ分断の歴史を持つベルリンでスパイアクションを撮るだけの気概と根柢があった。

**神山健治**さん(アニメ映画監督)

他国でも遠慮ゼロの暴れっぷりには、すがすがしさすら覚える。

リュ・スンボムは、『ノーカントリー』のハビエル・バルデム以来の魅力ある悪役だ。

**貴志祐介**さん(作家)

南北分断の諜報戦が行なわれるは、かつて東西冷戦の象徴、今は統一ドイツのショーウインドウ、舞台にして不足無し。リュ・スンワン、ベルリンを見事に仕切った。

**木村元彦**さん(ジャーナリスト)

金正恩体制下で激化している内部抗争と、北朝鮮をめぐる国際諜報戦の現実を、韓国映画だから描けた!

**黒井文太郎**さん(ジャーナリスト/元「ワールドインテリジェンス」編集長)

目の前に繰り広げられる諜報戦は、あまりにも細やかで、リアルで、今隣国で起きているであろう現実のことなのか...と冒頭から惹き込まれて目が離せなかった。

**小雪**さん(女優)

分断都市ベルリンを舞台に、スピーディに展開する諜報戦、アクション、銃撃戦、チェイス!そのスケールは、どれを取ってもハリウッドに引けを取らない。やっぱり、リュ・スンワン監督はタダモノじゃなかった。

**小島秀夫**さん(ゲームデザイナー)

北朝鮮のスパイ一人一人の心理に踏み込んでいるところが凄い。また、イスラエルを守るためならば平気で北朝鮮と汚い取引をするモサドのスタッフが面白い。国際インテリジェンス戦争の現在(いま)を伝える最高傑作。

**佐藤優**さん(作家・元外務省主任分析官)

金正恩への政権交代に伴う過酷な権力闘争の葛藤、その中で義と情に苦しむ北朝鮮秘密工作員の命運に現実を見た。

**菅沼光弘**さん(元公安調査庁調査第2部長)

北朝鮮の武器輸出や秘密資金の利権争い、外交官亡命など主題は現実で、南北情報機関の謀略合戦は凄味がある。

**田岡俊次**さん(軍事ジャーナリスト)

今まで持っていた韓国映画のイメージと違って、ハリウッド的なテンポの良い作りで楽しめた。

**千葉真一**さん(俳優)

「寒い国から帰ってきたスパイ」で描かれた諜報戦が鮮やかに蘇った。かつての冷戦都市ベルリンはいまも各国諜報員が暗躍する主戦場だ。

**手嶋龍一**さん(外交ジャーナリスト・作家)

これは現実だ。日本の隣国である分断国家が世界を舞台に繰り広げる暗闘。我々も刮目しなければならぬ!

**テレンス・リー**さん(危機管理コーディネーター)

スパイ、亡命、裏切り。嘘ばかりの世界で、信じられるのがまさかあの人とは。

すごく面白かった!

**貫井徳郎**さん(小説家)

異国のベルリンでも対立、対峙とは!あまりにも悲しく、哀れだ。朝鮮半島の悲劇はいつ終わるのだろうか!?

**辺真一**さん(コリアレポート編集長)

新居浜市立中央図書館

新居浜市立中央図書館